

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名 <b>インベーター・アンコール</b>	投球者 <b>徳江 和則</b>	センター <b>平和島スターボウル</b>
RG <b>2.500</b>	△RG <b>0.049</b>	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

**テストボール：インベーター・アンコール**

フレアーの幅  インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤 番

**比較対照ボール：ラスト・インベーター**

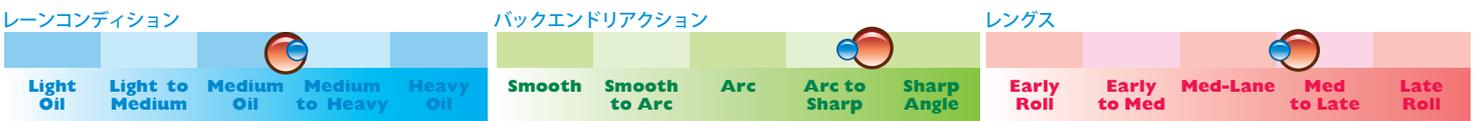
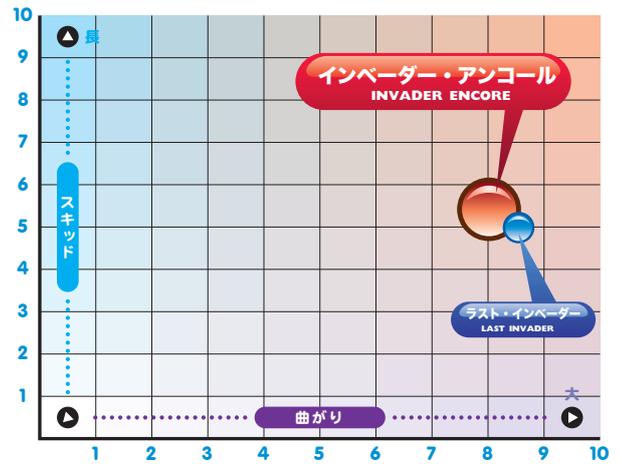
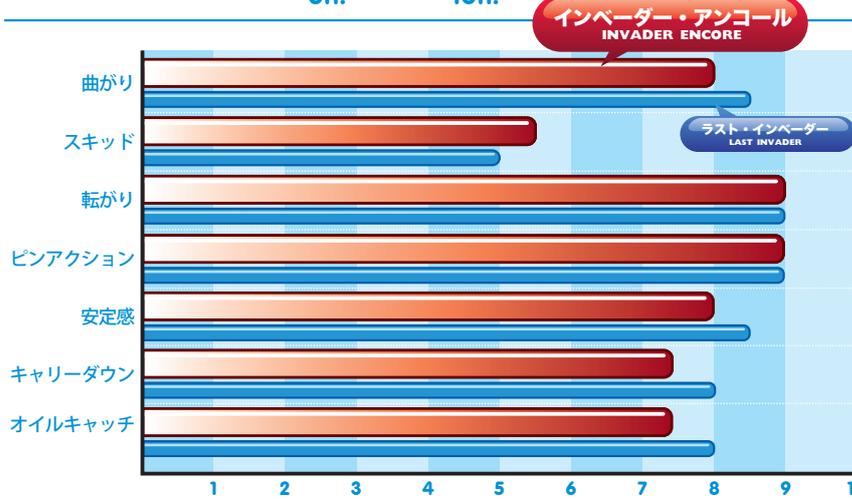
フレアーの幅  インチ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤 番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



### ボールの評価

昨年9月、久々にお目見えしたINVADERの最後を飾るべく、Pro-amのボールに恥じないパフォーマンスを魅せたLAST INVADER。INVADERを今尚望む声、ABSブランド内でエボナイト工場のものでなく、サンアントニオ、ミシガン、日本エボナイトでもないもの。それはブランドが持つカバーストックの特異性が出す独特な性能領域。ABS開発チームはエンドユーザーや契約プロたちへ未来を見据えて創造性や可能性を潰すのではなく、ABSが取り扱うことができるカバーストック素材を十二分に発揮させること。ここから新たに可能性を活かす方向へと転換していきます。INVADERシリーズのLAST INVADERが多くの皆様に受け入れられたように、「皆様が望むものを提供する」というのが基本理念とするなら、続編を作ることにもう迷いはありません。

MO5.5Pカバーストック、インフィニティーコアで配色(配合調整)をしたINVADER ENCOREをリリース致します。やはりINVADERの旨みと言えば幅広いコンディションに対しての対応力の広さとしっかり軸移動を完了してピンヒットする計算されつくした入射角までの動き、あらゆる合成レーンにおいてパフォーマンスの差が少ないことが言えるでしょう。INVADERシリーズを投球したユーザーは「出し戻すラインがしっかりと取れる」、「他のブランドと用途を差別化できること」等、ABSブランドの中でもPro-amモデルがあるかないかでボールレパートリーを組む順序も変わるのではないかと思います。INVADERシリーズは同じカバーとコアを採用し、配合比で若干の違いはあるもののパフォーマンスが想像しやすい利点があるでしょう。走りはあるけど滑らない。曲がったと思ったらもう一段階曲がる感覚。これよりも曲がりが大きくでるボールは数知れずあれど、このボールの性能が一番どの場面でも必要となるメインの領域。やはり一番使う領域の性能だからこそ信頼性と実用性で選ぶべきでしょう。

### 特記事項

**LAST INVADERとカバーの特性は一緒ですが、ENCOREのほうがスキッド感を感じ、先での動きにシャープさを感じます。LAST INVADERから次のボールを探している方や買いそびれた方はENCOREを是非お試しください。**